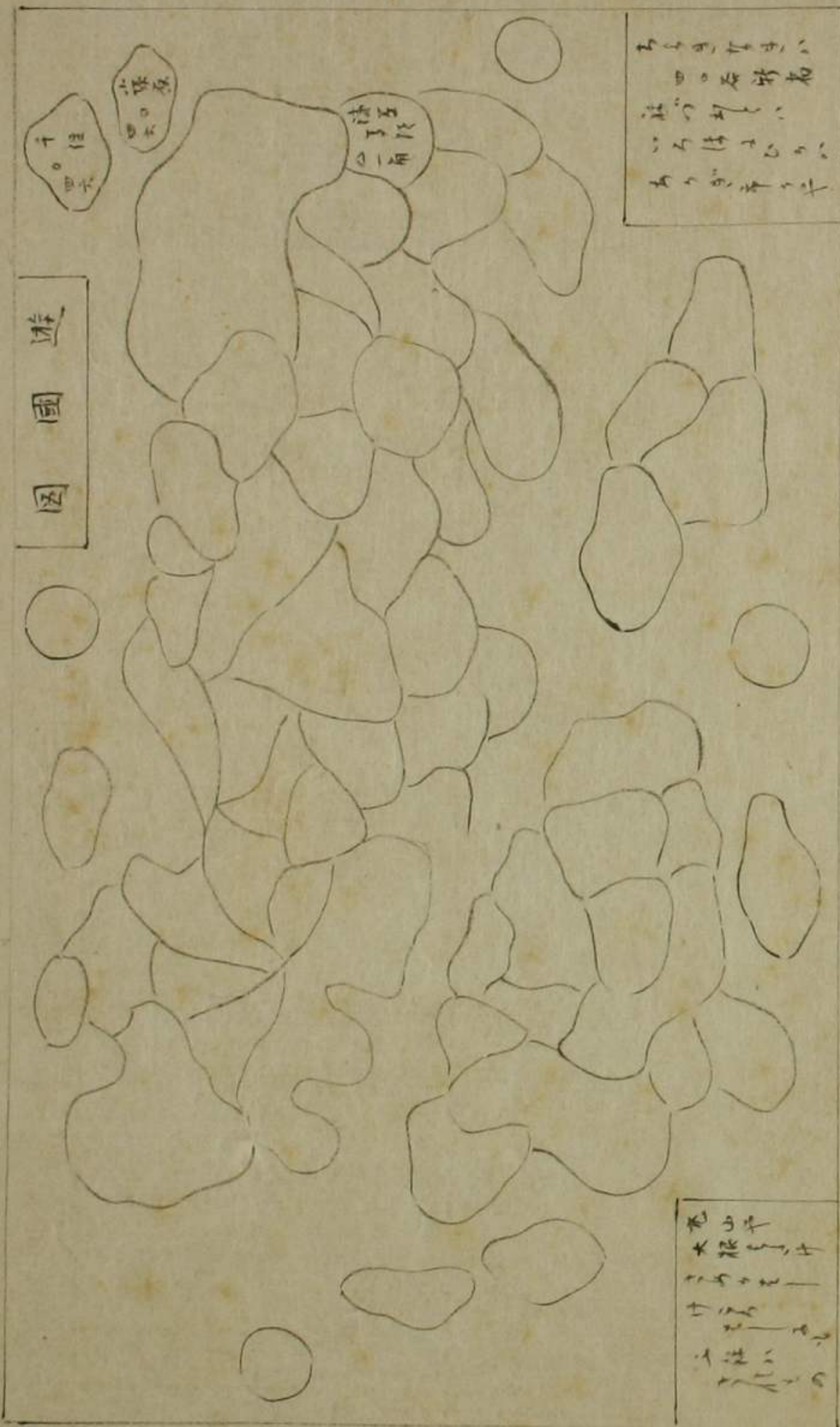




明 遠 6  
1229  
卷 4



道樂年代記

右ノ山ノ名  
四ノ石ノ名  
此ノ山ノ名  
此ノ山ノ名  
此ノ山ノ名

此ノ山ノ名  
此ノ山ノ名  
此ノ山ノ名  
此ノ山ノ名  
此ノ山ノ名

吉原起立 諸書と参考

慶長十七年庄司甚太右衛門奈托  
在評者ありて一々元和三年三月  
在評ありて

草正所の下より二十四方の地と賜りて  
是れ一町小蔵末と号す後小住名と  
日四年十一月

土島江初成りて格とす葉と并く  
是れ後四十一年  
去

移す

江戸町一丁目

大橋と云々  
云道之町  
評ありて  
是れ江戸の  
者なりて  
移す

17 二丁目

鎌倉河原上殿所跡勒町  
と高台一帯は十四五家あり

京町 一丁目

新町八丁月山宗廟跡  
と其こ一帯は十四五家あり

口 二丁目

吾原宗廟の跡と傳へ  
主大坂寺化諸國より娼家  
島と信子一二年後小宗他  
苗より宗廟と一帯は里佐  
新町と云

角町

新立と云十年前評長寛永三  
年宗廟跡所傳云竹町小娼  
家十家評長と信子新小角  
町と云

以上元吉原と云の町名 元禄二年刻中松月  
寺尚改作の諸殿名

匠諸高人の冊ふ見す  
佐方と云名のえ見す  
く唱へて見す  
中や

新吉原

明暦二年十月九日吉原替地の  
余下 浅草本  
以内の余下りて日中  
以竹江戸市中二る全  
割止元吉原ハ二町四  
町 二町五ヶ分北  
二万坪と賜ひ旧年十一  
月二十七日淺草本  
より金一万五千両同  
一全と給へる  
三月十八日  
三月

了て去るに延焼上係を—小園了て野地ハ後日  
 の以少治して之物上係を—作証—業と有る  
 六月初旬上七月中小去原引掛の 藪舎ありて  
 月十五日十六日雨日小去—浅平と戸村山谷村  
 島我村の伝書上移を新去原の地内物—て日年  
 八月葉と好む 天保十四年三月  
 凡百の十七年

揚屋町

境所

伏見町

主去原了てハ揚屋上云々の五町  
 中小散五三—と新去原ハ十地度  
 了て新く了て一而小集之—町とし  
 江戸町二丁目と角町の界を切す  
 て新原と造る—女子主比端と小  
 去—凡百屋七十四家は新小極  
 了—と今ハは町也—  
 櫻町と口時小極

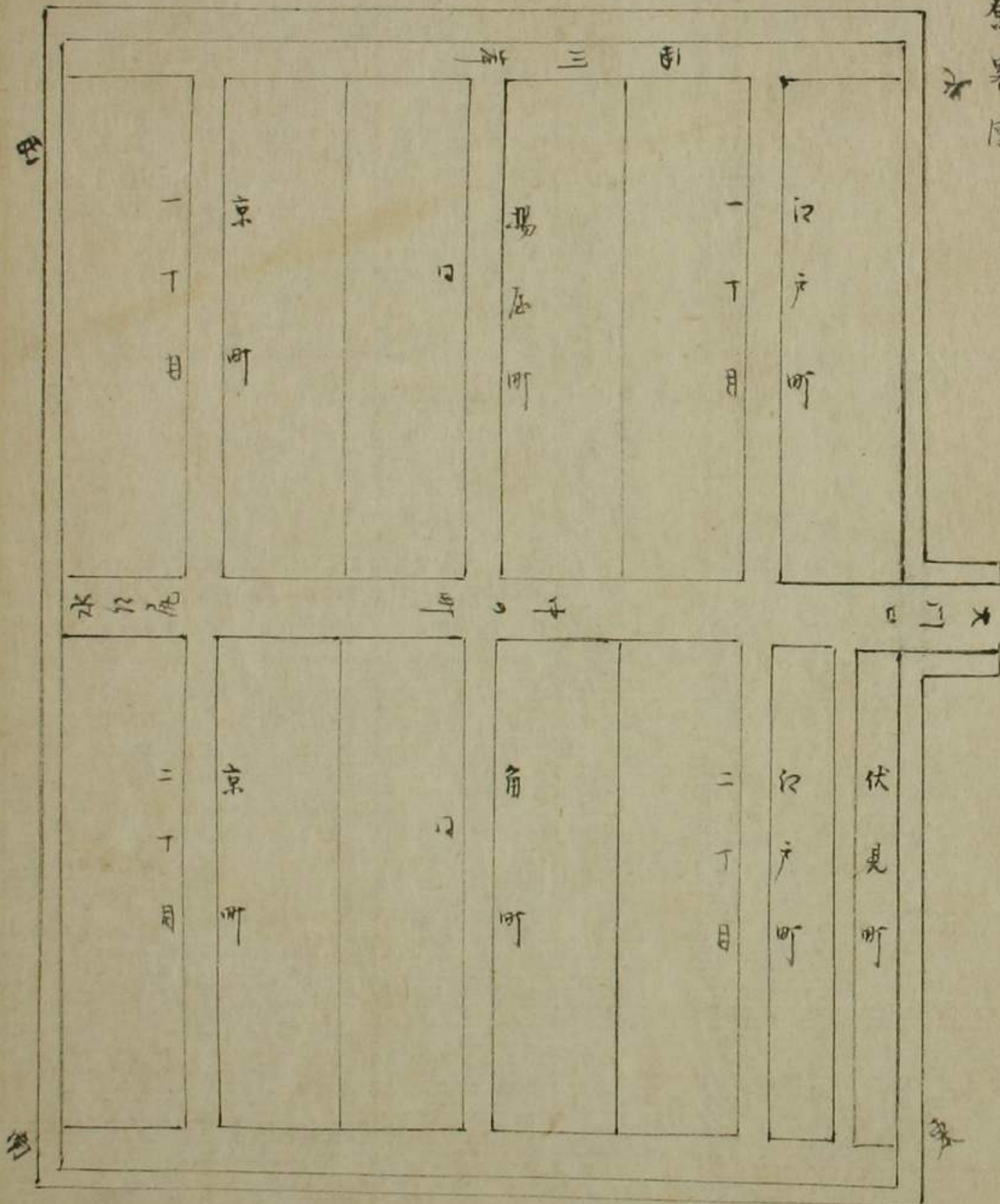
以上新去原以来の地名

日本堤

在榜示杭—千重天町木戸  
 長京間三間八十五間分大町戸  
 其輪町了て長日四百間 余町 四  
 總計十三町余

五十間道

新嘉坡原界圖













新去原人口 天保十四年九月

遊女 三千八百十二人 禿 五百八十一人

藝人 男 三十六人

女 五百廿九人 因 仲(河見) 五百六十七人 托女(河見) 三百六十二人

素人 男 千五百八十二人

女 二千百十四人

総計 八千六百五十四人 男 千六百十八人 女 七千〇三十六人

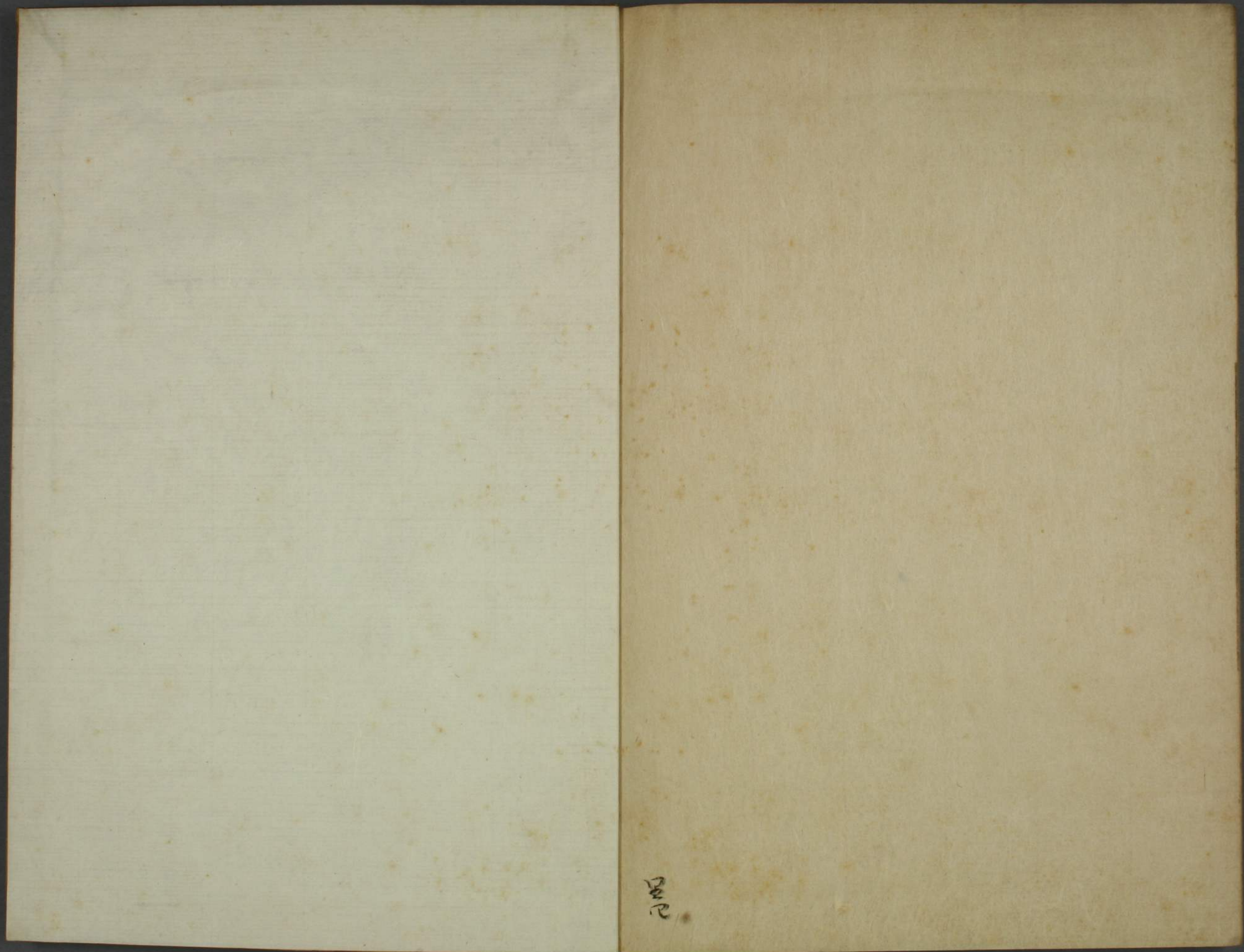
籠籠 大見 一軒 半籠 見也 十七軒

河並 小見 八十四軒 西河岸 十四軒

小松子 六十四軒 局見也 七十九軒

素人 別業 在 藝 人 未 四百八十四軒

総計 七百四十二軒



20

